

なかがわ

広報

2016.10



町のイメージキャラクター
「なかちゃん」



No.133

- 平成27年度決算報告 2
- 平成29年4月に町立認定こども園が開園します 6
- 栃木県知事選挙のお知らせ 8
- 第35回ゆりがねマラソン大会参加者募集 16



馬頭南保育園運動会

秋季特別展

「浮世絵名品展 -礫川・松井コレクション-」



第133回

今回紹介する作品は
喜多川歌麿(1753～
1806)の代表作「当時
三美人 富本豊ひな
難波屋きた 高しまひ
さ」竪大判です。現在

までこの作品は、ボストン美術館所蔵のものとの作品しか発見されていません。描かれている女性は、当時評判の町娘です。三尊型で描かれた構図の中央に着物が白抜きで富本流の桜草が描かれた、吉原玉村屋お抱えの富本流の芸者「豊雛」です。右の桐紋のある団扇を持つ美人は、浅草寺隨身門前で茶店を開いていた難波屋の「おきた」です。左の美人は、着物の丸に三柏の紋(当図では見えない)から、両国薬研堀で店を開いていた茶屋高嶋屋の娘「おひさ」です。彼女の事は、他の二人に比べ出自は知られ米沢町2丁目の煎餅屋高島屋長兵衛の長女でした。三人の年齢は、この作品が作られた寛政5年当時16歳から17歳でした。当時の美人の条件は厳しく、切れ長の一重まぶたの目、鼻筋が通っている、小さな口、透き通った肌、黒々とした髪などです。また美人画が遊女や芸者以外で取り上げられる事は稀で、当時の下町のアイドルと言うところだったと思います。

喜多川歌麿は天明期に歌麿式立ち美人で一世を風靡しましたが、その後寛政期に入り半身像の美人画を描くようになり、歌麿の美人画は全盛期を迎えます。しかし、時代は松平定信が行っていた寛政の改革の最後にあたり、定信が失脚した後も規則は残っていました。当作品は寛政の改革前に描かれた初摺ですが、後摺は寛政の改革中だった為に名前が消されています。

馬頭広重美術館 館長 市川 信也



「当時三美人 富本豊ひな 難波屋きた 高しまひさ」
絵師 喜多川歌麿 版元 鳥屋重三郎

【会 期】

後期：10月21日(金)～11月27日(日)

【ミュージアムトーク(展示解説)】

後期 10月22日(土)午後1時30分～ 当館館長

【講演会】

日時：10月30日(日)午後1時30分～3時

会場：当館視聴覚研修室

講師：新藤 茂氏(国際浮世絵学会常任理事)

【開館時間】午前9時30分より午後5時まで
(但し入館は午後4時30分まで)

【休 館 日】月曜日、祝日の翌日

【入 館 料】大人 700円(630円)
高・大学生 400円(360円)

※()は20名以上の団体料金。

※中学生以下は無料。

※障がい者手帳等をお持ちの方・付き添い1名は半額

美術館ボランティア募集

浮世絵や美術館に興味のある方、入館者と美術館をつなぐボランティアに参加してみませんか。展示室内の監視業務や簡単な説明などを行うボランティアを募集しています。

募集対象 18歳以上の方 活動日 半日又は1日単位で活動

問い合わせ 馬頭広重美術館 ☎0287-92-1199



入選「収穫祭」

撮影者

斉藤 英光さん
(大那地)



入選「舞奉納」 撮影者：川村 昇さん(水戸市)

